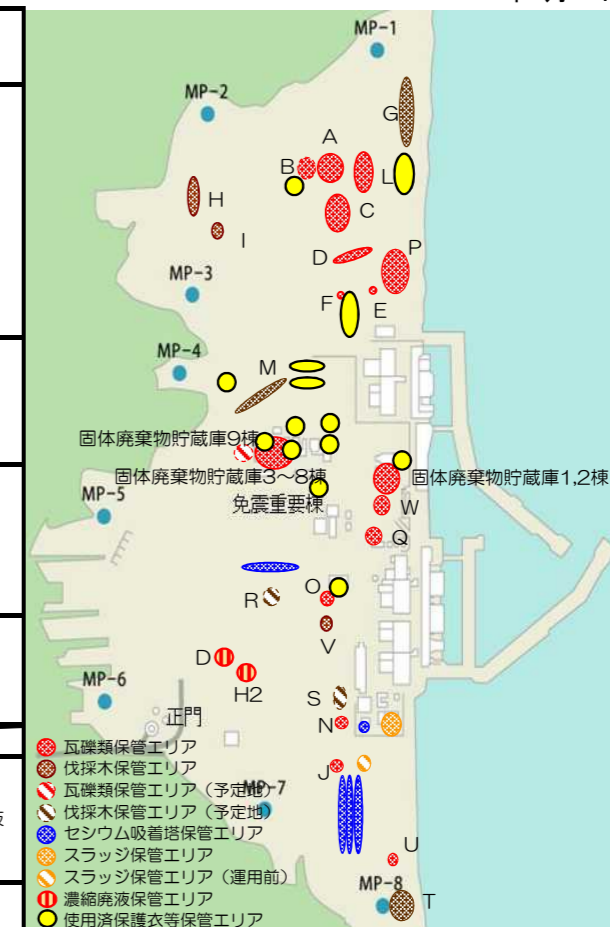


瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2016.12.31 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量 ^{※1}	前回報告比 ^{※2} (2016.11.30)	変動 ^{※3} 理由	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類 屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.02	2,800 m ³	0 m ³	—	85 %	137800 / 181200 (76%)	<ul style="list-style-type: none"> フランジタンク解体片 エリアPにて一時保管中。(2015年6月15日～) 2016年12月末時点で339基(コンテナ)保管。 エリアCの焼却可燃物 リスク低減の観点から容器収納しエリアPにて一時保管中。
	C	屋外集積	0.01未満	52,300 m ³	+2,400 m ³	①②	83 %		
	F	屋外集積	0.01未満	5,700 m ³	-200 m ³	③	76 %		
	J	屋外集積	0.01	4,300 m ³	0 m ³	—	89 %		
	N	屋外集積	0.01未満	4,500 m ³	0 m ³	—	45 %		
	O	屋外集積	0.01未満	26,200 m ³	0 m ³	—	95 %		
	P	屋外集積	0.01	41,300 m ³	+200 m ³	①④	65 %		
瓦礫類 シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m ³	0 m ³	—	88 %	32600 / 57300 (57%)	
	E	シート養生	0.03	11,300 m ³	+400 m ³	③⑤⑥	70 %		
	P	シート養生	0.02	5,900 m ³	-200 m ³	⑦	66 %		
	W	シート養生	0.05	12,800 m ³	微増	—	44 %		
瓦礫類 覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100 %	20300 / 27700 (73%)	<ul style="list-style-type: none"> 覆土式一時保管施設(第3種) 瓦礫類収納完了:2015年8月21日 仮覆土:2015年10月26日完了
	A	仮設保管設備	0.30	1,700 m ³	微増	—	24 %		
	E	容器 ^{※4}	0.02	300 m ³	0 m ³	—	19 %		
	F	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99 %		
瓦礫類 固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器 ^{※4}	0.01	7,800 m ³	+100 m ³	⑤	65 %	7800 / 12000 (65%)	<ul style="list-style-type: none"> 主な瓦礫類は、1～3号機建屋で発生した高線量瓦礫類。
	合計(ガレキ)			198,600 m ³	+2,700 m ³	—	71 %		
	伐採木 屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01未満	14,700 m ³	0 m ³	—	74 %	63300 / 81500 (78%)
I		屋外集積	0.01	3,600 m ³	-6,000 m ³	⑧	34 %		
M		屋外集積	0.01未満	39,500 m ³	0 m ³	—	88 %		
V		屋外集積	0.01	5,500 m ³	0 m ³	—	92 %		
伐採木 一時保管槽 (枝・葉)		G	伐採木一時保管槽	0.01未満	8,500 m ³	0 m ³	—	65 %	
	T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94 %		
合計(伐採木)			82,900 m ³	-6,000 m ³	—	78 %			
保護衣 屋外集積	容器	0.04	67,000 m ³	-2,100 m ³	⑨⑩	94 %	67000 / 71200 (94%)	<ul style="list-style-type: none"> 雑固体焼却設備の運用開始(2016年3月18日) 使用済保護衣等焼却量 1147t(2016年12月末累積) 焼却灰のドラム缶数 144本(2016年12月末累積) 	
合計(使用済保護衣等)			67,000 m ³	-2,100 m ³	—	94 %			

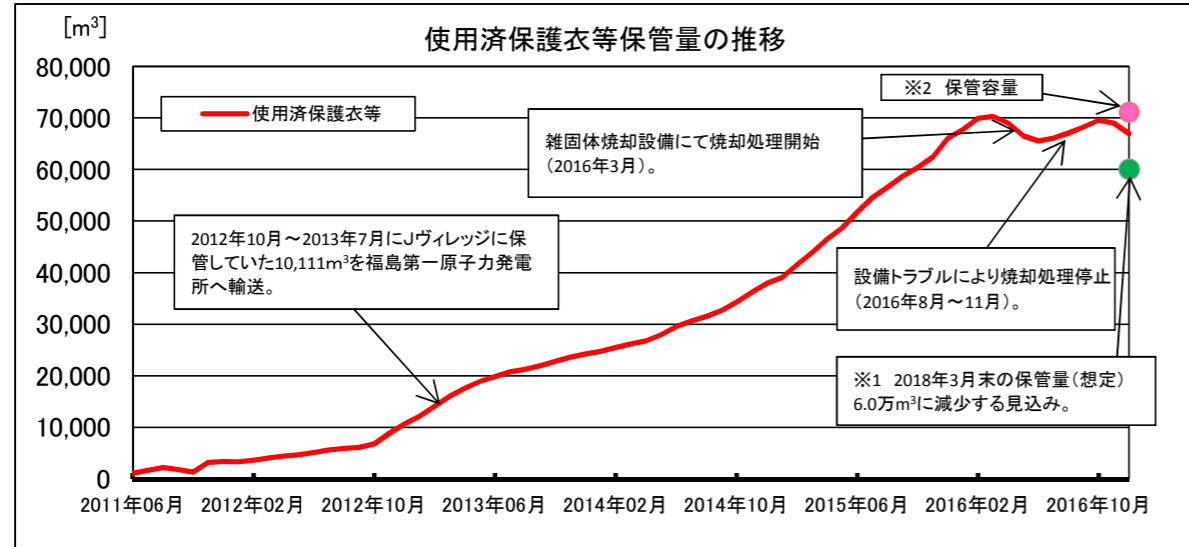
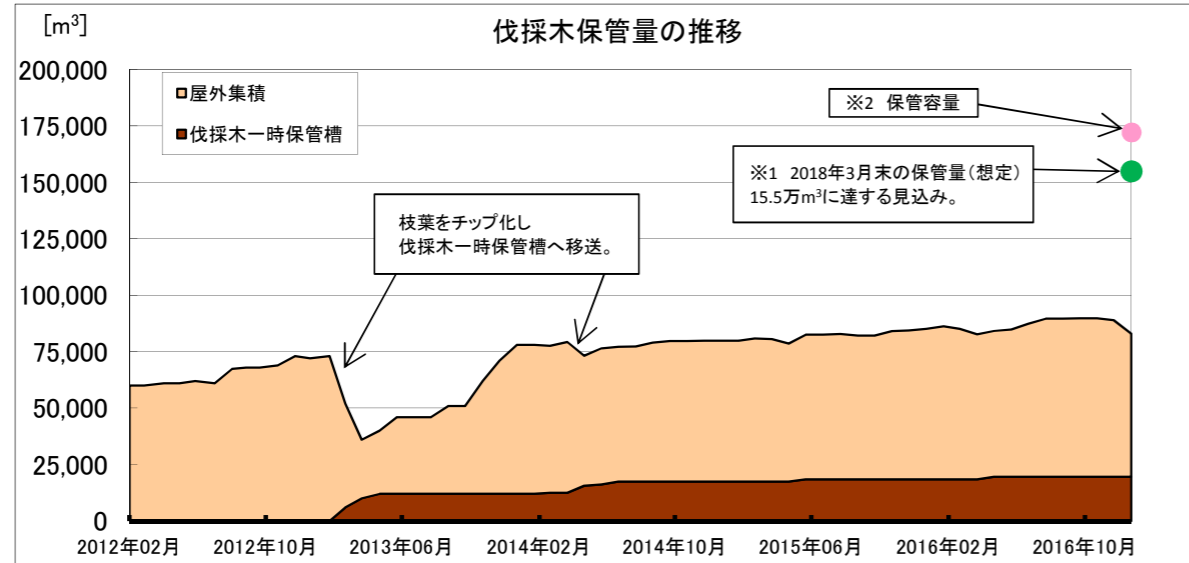
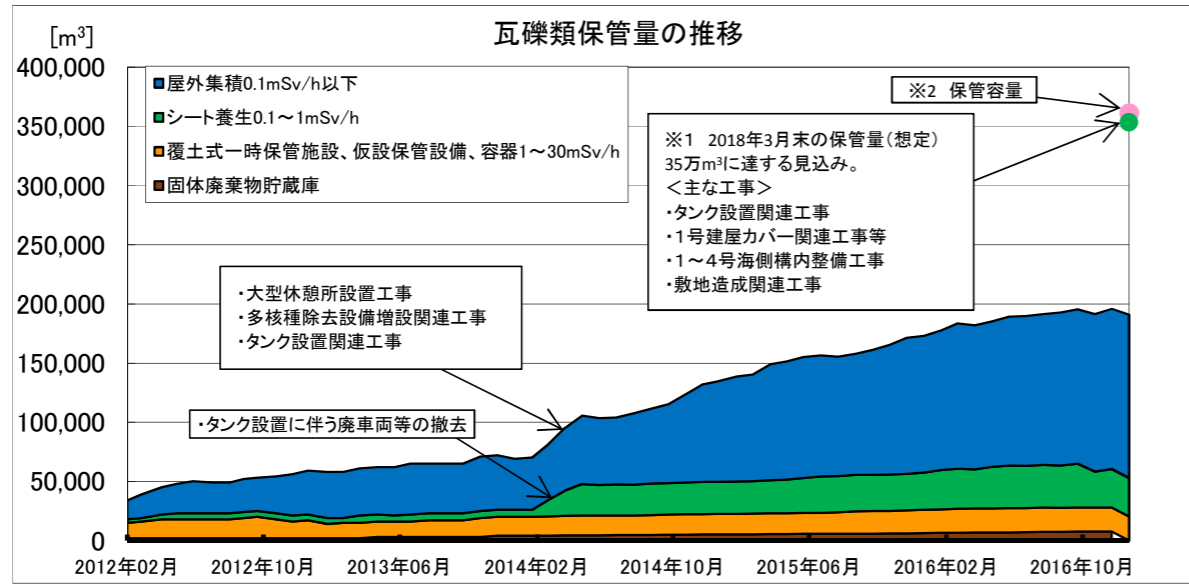


※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
 ※3 主な変動理由: ①タンク設置関連工事 ②フェーシング工事 ③エリア整理 ④焼却対象物の受入 ⑤1～4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事
 ⑥一時保管エリアPから瓦礫受入 ⑦瓦礫を一時保管エリアEへ移動 ⑧敷地造成関連工事 ⑨焼却処理 ⑩使用済保護衣等の受入
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2017.1.19時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2016.12.15)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	758 本	0 本	3478 / 6239 (56%)	<ul style="list-style-type: none"> 吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) 	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	180 本	0 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,289 基			+26 基
			増設	980 基			+28 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	73 本			0 本
	多核種除去設備処理カラム	既設	9 塔	0 塔			
	モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	189 本	+1 本				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	<ul style="list-style-type: none"> 除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。 		
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,240 m ³	-4 m ³	9240 / 10700 (86%)	<ul style="list-style-type: none"> タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) 水位計0%以上の保管量: 9140[m³] タンク底部～水位計の保管量(DS): 約100[m³] 今月より保管量にDSを加算(前回報告比は前回分にもDSを加算して算出) 		

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量推移(2016.12.31時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2016年11月14日申請中)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、実施計画(2016年11月14日申請中)の保管容量の運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物・濃縮廃液の保管量推移(2017.1.19時点)

